


【きつとね！年末交流会 2024】


2024.11.26 ホテルホースランド帯広

～市長挨拶要旨～



きつとね！年末交流会2024

思い出話



2024年11月26日
帯広市長 米沢 則寿

今日は、お二人との出会いについて、お話ししたいと思います。

お一人目、ホリプロの創業者であります、堀威夫さんです。この方との出会いは、私が市長になる前、最初に勤めた会社を退職し、野村証券系のベンチャーキャピタルのジャフコという会社に、29歳の時に転職をしました。そしてちょうど1年～1年半経った頃、30～31歳の時に、堀さんとお会いしました。それ

堀 威夫 (ほり たけお)
1932年10月15日生

- ・ホリプロ創業者
- ・芸能プロデューサー
- ・2021年 日経「私の履歴書」
- ・1989年 株式公開（2002年一部上場）
- ・「いつだって青春」が好きな言葉

は、ホリプロが株式を上場・公開しようという話を聞きつけ、白洲次郎さんの秘書をしていました当時の直属の上司と一緒に、ホリプロ詣でというくらい、お邪魔をしていました。その時、何度か食事に誘っていただき、場所は、当時防衛庁があった六本木のすっぽん料理屋（とみ綱）に連れて行ってもらいました。

当時、芸能プロダクションが上場することは、ほとんど皆さん考えていませんでした。ナベプロという会

社がありますが、そこは渡辺美佐さんが社長でしたが、この方にもお会いしましたが、「上場なんてとんでもない」と言っていました。ところが堀さんは、「芸能プロダクションはどこか見下されている。信用を上げたいので株式を上場したい。」と熱い思いを聞かせていただきました。今の話は、日経新聞の「私の履歴書」の2021年に掲載されていました。そこに私がした話がほとんど出ています。そして堀さんがよく口にしていた言葉が忘れられないのですが、「いつだって青春」という言葉を使っていました。

「わが人生に悔いなし」

作詞：なかにし礼 作曲：加藤登紀子
歌：石原裕次郎

- ① 鏡に映る わが顔に
グラスをあげて 乾杯を
たったひとつの星をたよりに
はるばる遠くへ来たもんだ
長かろうと 短かろうと
わが人生に 悔いはない

堀さんがある日、「とみ綱」の部屋に入ってこられるなり、鞆から一枚の紙を出しました。後に石原裕次郎が歌った、「わが人生に悔いなし」の歌詞を見せていただきました。作詞はなかにし礼です。加藤登紀子が作曲です。「この詩いいだろう。」と言われ読んだのが記憶にあります。当時は若くて「いいですね。」と答えましたが、今一つピンとこなかったのです。ただ、先日東京で食事に出かけたとき、この曲が流れました。涙が出るほど懐かしかった。

たです。それと同時に改めてこの詩を聞いて「いいな」と思いました。とくに「はるばる 遠くへ 来たもんだ 長かろうと 短かろうと わが人生に悔いはない」

② この世に歌が あればこそ
こらえた涙 いくたびか
親にもらった体ひとつで
戦い続けた気持ちよさ
右だろうと 左だろうと
わが人生に 悔いはない

③ 桜の花の下で見る
夢にも似てる人生さ
純で行こうぜ 愛で行こうぜ
生きてるかぎり青春だ
夢だろうと 現実だろうと
わが人生に 悔いはない
わが人生に 悔いはない

2番の「親にもらった 体ひとつで 戦い続けた 気持ちよさ 右だろうと 左だろうと わが人生に 悔いはない」なかなか歌詞だなと思います。

3番、「純で行こうぜ 愛で行こうぜ 生きてるかぎりは 青春だ」ここで彼の口癖の言葉が入っています。これがうれしかったのだと思いますが「夢だろうと 現実（うつつ）だろうと わが人生に 悔いはない」私は久しぶりに聞いて感動が蘇ってきました。

このご縁で、「ジャフコの社歌を作ってくださいませんか。」と言ってしまいました。そうしたら「いいよ」と言ってくださり、なかにし礼作詞、作曲は服部克久、歌はホリプロの和田アキ子になりました。「勇氣あるもの」というタイトルで作っていただきました。あんたの会社はどんなことやっているんだとじっくり聞かれ、作ってくれた歌です。とてもいい思い出になりました。

社歌と言えば、先日11月13日に谷川俊太郎が亡くなりました。学生の時から大好きな詩人でしたが、北海道新聞に谷川俊太郎が六花亭の社歌の作詩をしていると掲載されていました。昔六花亭の社長と話をした記憶が蘇ってきたのですが、谷川さんに直接手紙を書いてアプローチをして縁をつくったそうです。改めて「行動」というのがどれだけ大切かという事が皆さんと共有できたらいいなと思います。

丹保 憲仁 (たんぼ のりひと)
1933年3月10日生
2023年8月6日逝去

・第15代 北大総長
・元放送大学学長
・道立総合研究機構 初代理事長

もう一つ、第15代北海道大学総長を務められた丹保憲仁先生です。残念ながら昨年8月にご逝去されました。丹保先生との出会いですが、ロンドンから帰ってきて札幌で北海道銀行との合併会社の社長を拝命して、40歳ごろでした。今では当たり前ですが、スタートアップ投資やベンチャー投資などいろいろな言葉がありますが、大学の研究成果をもとにして会社をつくっていいんじゃないか、

起業、創業させようじゃないかという機運がありました。スタートアップファンドといいます。日本で最初のファンドをつくりました。第2号が筑波大学の江崎玲於奈さんです。第1号は、丹保先生とつくった北大アンビシャスファンドです。北大を退官された後、放送大学の学長などを歴任されましたが、私が帯広市長に当選させていただいたとき、道立総合研究機構の初代理事長をされていました。ご挨拶に行ったら、笑顔で本当に喜んでくれまして、亡くなるまでご厚誼いただきました。

今日ご紹介したいのは、先生との間のエピソードです。

私が初めて北大の総長室を訪ねたときです。招かれるまま応接椅子に座りました。「米澤さんは当校の卒業生でしたね。」と言われ「この総長室、建物が火事になったら、私が命に代えてでも持ちださなければならないものがあるが、何かわかりますか。」と笑いながら聞かれました。私は初めて入った総長室を見渡しました。本や書類がたくさんあり、絵もありました。

<北大総長室で観た 新渡戸稲造書の掛物>

Be ambitious

“大志(野心)を抱け”

Haste not, rest not

“急ぐなかれ、休むなかれ”

困惑していたら、「先ほど入った入り口の上を見てごらん。」と言い、指をさして「あれだよ。」と言いました。毛筆で「be ambitious」、「これ新渡戸稲造の自筆だから」と言われました。新渡戸稲造はご存じのとおり札幌農学校の卒業生です。「武士道」という本を掲げております。それがきっかけで何度も「武士道」を読んでおりますが、我々北大にいった人間は「Boys be ambitious」という言葉をたくさん覚えさせら

れます。響きとしては「be ambitious」という方が、しっくりきます。

もう一つ、新渡戸稲造の書が北大に残っています。これはあまり表には出ていませんが、後日になります。北大の書庫に連れて行ってもらい見せてもらったのが、「haste not, rest not」という言葉です。これはゲーテの言葉だそうです。「急ぐなかれ、休むなかれ」こう書かれていて、これも毛筆で豪快に書いてありました。宝物だと言われていたものが、この瞬間に私にとっても宝物になりました。

「haste not, rest not」これは14年市長をやらせていただいて、いつも自分に言い聞かせている言葉です。「焦るな 絶対続けるんだ」そういう言葉です。「急ぐな、そして休むな」これは心の中で大切にしていかなければならないなと思っています。

先生とは市長になってからも大変お世話になりました。北海道を代表する知の巨人と言われる方です。話していると自分がどれだけ不勉強かと思知らされるので、あまり行きたくなかったですが、たまにお声をかけていただいて札幌で食事をさせていただきました。その時にこんなことを言われました。「be gentleman」。クラーク博士の言葉です。私もその時初めて聞きました。

<丹保先生との会話>

○ *Be gentleman* “紳士たれ”

○ 粗にして 野だが 卑ではない

- ・国鉄総裁 石田禮助のモットー
- ・言動が雑で粗暴であっても 決して卑しい行いや態度をとらない
- ・城山三郎の小説の題名にもなった

札幌農学校の初めの頃の学生たちは寮に入っていて、よく喧嘩をしていたそうです。それでルールをつくろうという話になったときに、クラーク博士は「いらぬ」と言い、たった一つのルールを決めよう「Be gentleman」と書いて「これでいい」と言ったのがその時のお話だと伺いました。これはなかなか深いです。今は何でもマニュアルをつくって、法律に書いてあるとか、法律に違反しないからやってもいいとか言います。

今日もネットの記事を開いてもそればかりです。買収にあたらなかった。政治資金規正法に

違反にならないなど。でも最近一番欠けているのはこれではないかと。決められた法律に縛られることで、それ以外は何をやってもいいではなくて自分の心に恥じないような生き方をしなければいけない、それが「gentleman」という単語に表れていると思います。そういう面ではこれも非常に、先生との話で記憶に残ります。

もう一つ、「粗にして野だが卑ではない」。これは国鉄総裁の石田禮助のモットーとしたものです。「言動が雑で粗暴であっても、決して卑しい行いや態度をとらない。」私はこれもなかなかうまいことを言っているなと思いました。

我々は資本主義のど真ん中になると、卑しさやさもしさとか、昔は絶対許してもらえなかったことが、儲かればいい、速く効率的であればいいとみんなやってしまう。私自身もそこに足を入れてしまっています。この先生方との話を懐かしく思い出します。

先ほどの繰り返しになりますが、ネットにおける誹謗中傷、フェイクニュースの拡散、これが選挙にどんな影響を与えるのかと、最近、時事的にそんな話が出てきます。あとは闇バイトの暴力、忌まわしい世相を感じます。

今、二つ三つ偉そうにお話ししましたが、どれも深いなと感じます。何十年も前に聞いた話ですし、その話はその何百年前に言った人たちの言葉であったことが、先人、先輩たちの話はまじめに聞かなくてはいけないなと改めて感じています。

14年前に皆さんのお力をいただきまして、帯広市長に就任させていただきました。今日こちらにご参会いただいた皆さんをはじめ、市民の皆さんとの素晴らしい出会いが、私にとってこの14年間で最大の財産になりました。人との出会いというのは本当に有難いこと、素晴らしいことだなと思いますし、人との出会いの中で生まれてくるものが幸せというのを改めて感じています。

その意味でも、本日、皆さんと交流をさせていただきますが、大変楽しみに参上したところです。今後ともよろしくお願い申し上げまして、私のご挨拶に代えさせていただきます。どうもありがとうございました。